

イモゾーファミリーと振り返る 東海村60年のあゆみ

【主な出来事(昭和50～54年)】

昭和52年 (1977年)	昭和51年 (1976年)	昭和50年 (1975年)
7月 ▽アメリカの調査団にカーター大統領宛の親書を渡す 5月 ▼上水道一部給水開始 4月 ○県立東海高等学校開校 ○東海村民会館(現・東海文化センター)開館を祝い、盛大に記念行事が行われる ▼東海村青年会発足	12月 ▼清掃センターで超高速巡回流焼装置を備えた無煙焼却装置の運転開始 11月 ▽村民対象の原子力施設見学会開催 5月 ○青年の家(現・中央公民館)開館	2月 ○国家行政研修コースの外国人が白方小学校訪問 ▼5年ぶりの大雪で道路網大混乱 4月 ○舟石川保育所開所 ○須和間幼稚園開園 5月 ▼村松郵便局移転・開業 6月 ▼清掃センター(ごみ焼却場)完成 ▼「福祉だより東海」第1号発行 7月 ○照沼小学校で「なかよしこよし」の像除幕 ▼集中豪雨で土砂流出、床下浸水などの被害 9月 ○第1回村内小学校水泳記録会開催 10月 ▼環境衛生監視員誕生



▲急ピッチで進む上水道工事(昭和51年ごろ)



▶原子力施設見学会(昭和51年)



▲照沼小学校で「なかよし」の像の除幕式(昭和50年)



▶青年の家(現・中央公民館)開館(昭和51年)



▶国家行政研修コースの外国人が白方小学校を訪問(昭和50年)



▲清掃センター(ごみ焼却場)完成(昭和50年)

あのころの…

「広報とうかい」
こんな記事(一部抜粋)

■テレビで申告指導 全国の市町村に先がけて(第208号/昭和50年3月20日発行)

村では、全国の市町村に先がけて納税の申告指導にビデオテープによるテレビ放映を行ない申告に来た村民のみなさんに喜ばれています。いままでは、申告締め切り前に各地区の公民館を回って申告の指導を行なってきましたが、現実には村民の納税申告書は係員が書くことが多く、順番を待つ人が長時間待っているなどの悩みがありました。そこで、待ち時間を利用してビデオテープによるテレビで解説を行ない、テレビを見ながら必要などころは自分で書くことができ、納税事務の合理化に大いに役立ちました。

■名前に使える漢字が増えました(第225号/昭和51年8月20日発行)

これまで名前に使える文字は、当用漢字1850字と人名用漢字92字、それに片仮名と平仮名に限られていましたが、このたび、人名漢字が追加され、次の28字※も使えるようになりました。※佑・允・冴・喬・怜・悠・旭・杏・梓・梢・梨・沙・渚・瑠・瞳・紗・絃・絢・翠・耶・芙・茜・葵・藍・那・阿・隼・鮎



昭和54年 (1979年)	昭和53年 (1978年)	昭和52年 (1977年)
10月 ▼大型台風20号により道路冠水、床下浸水などの被害が出る 9月 ▼有線屋外放送開始 8月 ○第1回「東海まつり」開催 4月 ▼新生児の誕生を祝い、アルバム付き証書交付 3月 ▽財団法人核物質管理センター保障措置分析所が、核燃料物質の分析・測定業務開始	11月 ▽原電・東海第二発電所営業運転開始 ○郷土史講座の受講者らにより「東海村の石仏・石塔」発行 10月 ▼新国保診療所開所(昭和57年4月に東海病院となる) 8月 ▽原研の研究用原子炉(JRR-1)が記念展示館としてオープン 4月 ○東海南中学校開校 ▼東海村老人福祉センター「みどり荘」開所 ▼東海村民会館に県知事を迎え、県政懇談会開催 3月 ▼消防分団に小型ポンプ積載車配置 2月 ▼都市計画街路「石神外宿―原電線」が完成し、供用開始	11月 ▼東海村文化協会発足 ▼村営の歯科診療開始 ○青年の家の図書室開放 10月 ▼東海村民会館落成記念式典(昭和52年) 8月 ○第1回真崎祭り開催

▼…暮らし ○…教育・文化 ▽…原子力



▲有線屋外放送施設の工事(昭和54年)

▶大型台風20号の被害(照沼小学校通学路)(昭和54年)



◀第1回「東海まつり」(昭和54年)

▼原研の研究用原子炉(JRR-1)が記念展示館としてオープン(昭和53年)



▲東海村民会館(現・東海文化センター)落成記念式典(昭和52年)



◀石神小学校創立100周年記念式典(昭和52年)

■カナヅチ集まれ!主婦を対象に
水泳教室(第249号/昭和53年
8月20日発行)

主婦を対象にした水泳教室が、中丸小学校プールで開かれ、ました。はじめほとんど泳げなかった主婦たちも、4日間熱心に練習したかいあって、教室終了日には平泳ぎ、クロール、背泳ぎができるようになった「これでこどもたちにも負けないワ…」と笑顔を見せていました。

■南中学校々々章(第243号/昭和53年2月20日発行)

…東海南中学校の校章は校名の由来と東海中との一体化を考慮して、現在の東海中の校章に「南中」と入れたものです。…六角形の鏡をかたどり地色の紺青は太平洋の海、中に7つの波頭をあしらっています。19本の波は、発足当時の地区数、友情は鏡のようにくもりなく、19地区出身者の協調を象徴しています。



■東海中から117人競争率の高い東海高校(第231号/昭和52年2月20日発行)

今春開校の県立東海高校には募集270人に対し418人が応募、日立商の1.56倍につき1.55倍の高い競争率となっています。このうち、東海中からは、男47・女70の計117人が応募しており、これは県立高校志願者292人の40パーセントに当たります。